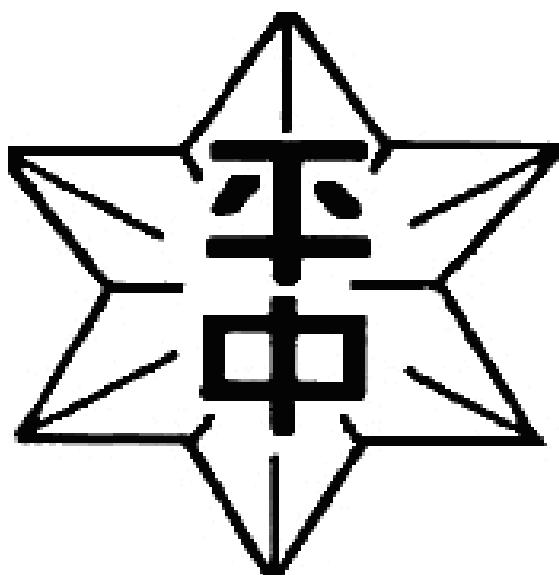


令和5年度

運営に関する計画



令和6年3月

最終評価

大阪市立平野中学校

大阪市立平野中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は社会に貢献できる生徒の育成を目指し、「あいさつをする、他人の話を聞く、ルールやマナーを守る」等の指導に継続して取り組んでいる。また、教職員が協力・連携し、毎日の登下校指導や生活指導、授業規律を徹底することで、落ち着いた学びの場を維持している。経済状況の悪化や家庭状況により生活が厳しい生徒もいる中、生徒は学習や部活動に前向きに取り組んでいる。しかし、自分の将来や学習に対する目標意識が低い生徒が多く、「全国学力・学習状況調査」、「大阪府チャレンジテスト」等の結果を分析すると、学力の2極化が顕著である。数年前から家庭学習の定着を図る取組を継続して行っているものの、各調査の質問紙等の回答状況から、家庭で主体的に学習する生徒の割合は増えておらず、これまでの取組の成果が表れていない。

- 学級活動・生徒委員会活動・部活動等の活性化と充実を図り、部活動や生徒委員会に積極的に参加する生徒の育成を通して自己肯定感を高める。
- ICT機器を授業や家庭で活用し、生徒の個に応じた学びを保障するとともに、家庭学習の定着を図る取組が必要である。
- 各教科において生徒の協働学習を推進し、言語活動によって「知識・技能」を活用し「読解力」、「思考力」、「表現力」を育成するための授業改善が必要である。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った実践交流や研修等を実施する。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、学校で把握した虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を、毎年100%にする。
- 令和7年度末の学校教育生徒アンケートの「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の学校教育生徒アンケートの「学校行事や学年取り組みにおいて、自分の役割を自覚し、積極的に行動している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の学校教育生徒アンケートの「学校では、命を大切にし、平和と人権を尊重する心と態度を学ぶことができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和4年度からの4年間で3ポイント増加させる。

【未来を切り拓く学力体力の向上】

- 令和7年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点)3割以下の生徒を、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- 令和7年度の学校教育生徒アンケートの「授業や学級活動で話し合うことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。
- 令和7年度末の学校力UPベースアンケートの「習熟度別少人数授業別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を令和4年度からの4年間で2ポイント増加させる。
- 規則正しい生活を身につけている生徒の割合（全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」、学校教育生徒アンケートの「給食を残さずに食べていますか」それそれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和7年度調査において、90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の学校教育生徒アンケートの「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、95%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定し、学校閉学日については、夏季休業期間中は4日以上、冬季休業期間においては3日以上設定する。
- 令和7年度の学校教育生徒アンケートの「読書は好きですか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。
- 令和7年度の学校教育保護者アンケートにおける「学校の様子をよく知ることができる」の項目について、肯定的に回答した保護者の割合を、令和3年度（87%）より2ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
79.8	78.0		

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
5.5	8.5		

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
45.0	23.0		

学校園の年度目標

○年度末の学校教育生徒アンケートの、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を、95%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
100	100		

○年度末の学校教育生徒アンケートの「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、90%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
97.5	98.1		

○年度末の学校教育生徒アンケートの「学校行事や学年取り組みにおいて、自分の役割を自覚し、積極的に行動している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
88.4	89.4		

○年度末の学校教育生徒アンケートの「学校では、命を大切にし、平和と人権を尊重する心と態度を学ぶことができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
97.7	99.2		

【未来を切り拓く学力体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
37.4	38.2		

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
国語	0.94(3年) 0.91(2年) 0.95(1年)	0.98(3年) 0.95(2年) 0.91(1年)		
数学	0.95(3年) 1.03(2年) 0.97(1年)	1.00(3年) 0.95(2年) 0.92(1年)		

○大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
52.5	51.9		

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を45%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
55.6	56.0		

学校園の年度目標

○年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点)3割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
3年 19.2(5教科) 19.4(3教科)	3年 20.3(5教科) 15.1(3教科)		
2年 22.3(5教科) 20.4(3教科)	2年 18.2(5教科) 16.6(3教科)		
1年 11.1(3教科)	1年 11.2(3教科)		

○年度末の校内調査(学校力UPベース)の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
89.1	88.4		

○年度の学校教育生徒アンケートの「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」、「給食を残さず食べていますか」それぞれに対して、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
起床: 89.4	起床: 90.7		
給食: 80.3	給食: 84.6		

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小・中学校)

○家庭や授業で一人一台の学習者端末を効果的に活用し、年度末の校内調査における「家庭や授業で学習者端末を週に3回以上活用しますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
70.5	70.3		

○協働学習支援ツールを用いた学習を推進し、年度末の校内調査における「学習者端末を活用して、友達と協力して授業の学習内容を理解することができている。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を40%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
72.9	74.3		

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務を校種別の平均時間より下回る。(12月累計)

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
39時間49分 (43時間12分)	38時間14分 (40時間46分)		

学校園の年度目標

○学習者用端末を活用した家庭学習の取組を月2回実施し、年度末の学校教育生徒アンケートにおける「デジタルドリルなどを活用した家庭学習で、学校の学習内容を復習することができた」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
31.5	30.2		

○ゆとりの日の設定を、月2回以上または各学期に6回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間においては3日以上設定する。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
ゆとりの日 17日	ゆとりの日 14日		
夏季閉庁日 3日	夏季閉庁日 3日		
冬季閉庁日 3日	冬季閉庁日 3日		

○令和5年度の学校教育生徒アンケートの「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
70.4	69.8		

○年度末の保護者アンケートにおける「学校の様子をよく知ることができる」の項目で、肯定的に回答した保護者の割合が87%を上回る。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
87.6	90.6		

3 本年度の自己評価結果の総括

新型コロナウイルスによる教育活動の制限が緩和され、学年行事や学校行事の多くをこれまでの形や新たな形で再開することができた。様々な行事や取組を通して、実行委員会の発足や生徒専門員会の活性化により、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることができた。しかしその一方で、不登校生徒の割合や、中学校入学後の新たな不登校生徒が増えている。不登校の要因の一つに漠然とした不安が挙げられるが、その不安は学習や人間関係の構築に起因するものが多いと考える。「不登校はどの子にも起こりうるもの」という視点に立って、「心の天気」や教育相談で生徒の状況把握を行っているが、日々の生徒との対話を通してその言動の変化に気づき迅速に対応することも大切である。今年度も不登校の状況にある生徒の保護者に教育支援センターや区役所等の支援ルームを紹介し、通所ができるようになった生徒はいるが、学校に登校できるようになるケースは少ない。3年生になると進路選択・決定により一部生徒に不登校の改善がみられるが、1, 2年次に不登校の状況が大きく改善されるケースはほとんどない。このような不登校の状況にある生徒が学校とつながり、個に応じた学びを保障する観点から、次年度は学校内に学びの場（別室）をつくり、不登校の克服・改善を図っていく。

学力向上においては、全国学力・学習状況調査や中学生チャレンジテストの結果を経年で比較すると、少しずつではあるが全国や府の平均正答率と僅差となる教科が増えている。引き続き教員の授業力向上や授業改善を具体的な手立てを講じ推進していく。学習指導要領に基づいて授業改善を図っているが、言語活動の素地となる「知識・理解」を疎かにすることなく、学習につまずきのある生徒の基礎基本の定着に向けても習熟度やTTによる授業形態や教材のさらなる工夫が必要である。「心の天気」の入力・確認が習慣化されたことで、校内における毎日の学習者端末の活用率は80%を超えている。しかし、外部調査のアンケート結果から、全ての学年において授業中の学習者端末の活用頻度は低く、家庭へ持ち帰りも進んでいないため、各授業での学習者端末を活用した学習や課題について検討し、家庭学習強化週間や週末または長期休業中に家庭で学習者端末を用いて学習できるようにする。

教員の業務負担の軽減において校務支援パソコンは有効であるが、掲示板や個人連絡を毎日閲覧している教員は半数以下で、校務支援の活用が習慣化できていないため、連絡や情報の共有が徹底できていない。校務部会や各委員会等からの連絡を校務支援パソコンで行い業務軽減を図っている教員は増えているが、全教員でみると活用はそれほど進んでいないのが現状である。アンケートの集約や採点等に各種機能やアプリ等を効果的に活用することで、業務負担の軽減や時間外勤務の短縮において改善の余地があると考える。

大阪市立平野中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

達成
状況

年度目標

【安心・安全な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

令和4年	令和5年
79.8	78.0

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

令和4年	令和5年
5.5	8.5

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

令和4年	令和5年
45.0	23.0

学校園の年度目標

○年度末の学校教育生徒アンケートの、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を、95%以上にする。

令和4年	令和5年
100	100

○年度末の学校教育生徒アンケートの「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、90%以上にする。

令和4年	令和5年
97.5	98.1

○年度末の学校教育生徒アンケートの「学校行事や学年取り組みにおいて、自分の役割を自覚し、積極的に行動している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。

令和4年	令和5年
88.4	89.4

○年度末の学校教育生徒アンケートの「学校では、命を大切にし、平和と人権を尊重する心と態度を学ぶことができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。

令和4年	令和5年
97.7	99.2

B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>長期欠席児童生徒（欠席日数30日以上）について、調査を行い、状況の把握をするとともに、生徒との教育相談や家庭訪問など、普段から生活状況も含めて捉えられるよう取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個別状況については教育・生活シートを作成し、全教職員の共通理解を図るため研修を年に2回実施する。 ・年に3回、教育相談週間を設けて、子どもの心のケアに努める。 ・月に1回、学校生活アンケートを実施し、子どもの心のケアに努める。 	B
<p>取組内容②【施策 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>生徒が安心して学校生活が送れるよう、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組む。また、いじめが疑われる場合は、迅速かつ適切にこれに対処し、さらにその再発防止に努める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、「中学校いじめ防止基本方針」をもとに教職員の共通理解を図る。 ・「いじめ（いのち）について考える日」に全校集会で講話をおこない、また生徒会より全校生徒にアナウンスをし、いじめを絶対に許さない学校の雰囲気作りに努める。 ・年に3回、いじめアンケートを実施し、早期発見、早期対処を徹底する。 	B
<p>取組内容③【施策 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>虐待について状況の把握を早急に行い、生徒の安全を第一に考え、より良い措置を行うよう努める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1度、区役所や各関係諸機関との連絡会議を行い、実態を把握する。 ・全教職員の共通理解を図るために週に1度、主任会を開き、各学年の生徒の実態を共通理解する。 ・タブレット端末の「心の天気」を毎日活用し、実態の把握に努める。 	B
<p>取組内容④【施策 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>スマホの危険性や依存性などを生徒に理解させ適切な使い方が出来るような取り組みをおこなう。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年次は校内、第2学年次は警察、第3学年次はスマホ会社によるスマホ安全教室を行い、適切な使い方を学習する。また、SNSによるトラブルが発生した場合は、事案の内容に基づいて適切な指導を行う。 ・年に2回、学校教育生徒アンケートを実施し、生徒の実態を把握する。 ・年に2回以上、学年集会時にスマホの使い方についての指導をする。 	B
<p>取組内容⑤【施策 2 豊かな心の育成】</p> <p>学校行事や学年取組について、生徒が主体的に運営や企画に携わり取り組むよう指導する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、生徒専門委員会を開き、委員会で出た意見などを生徒議会で共有する。 ・行事ごとに、生徒実行委員会などを発足する。 ・行事後に、振り返りを行い、反省と成果を生徒の育成に反映する。 	A

取組内容⑥【施策 2 豊かな心の育成】

大阪市が長年培ってきた人権教育の実践を踏まえ、差別を許さず共に生きる社会への実現に向けて、生徒・教職員の人権意識の向上に努める。

指標

- ・平野区人権教育講演会、ならびに平野区人権教育実践交流会への教職員の参加を促す。
- ・各教育部会、それぞれの発案による授業を年間に最低2時間ずつ行い、生徒に豊かな人権感覚を身につけさせる。
- ・いじめの疑いのある事案やSNSによるトラブルが発生した場合は、その事案に基づいて人権教育を行う。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

生徒の状況についての研修を2回実施した。全職員で友人関係や家庭環境などについて共有し、生活指導に活かすことができた。教育相談と生活アンケートは計画通り実施した。教育相談やアンケートの回答をもとに、生徒の悩みや問題について早急に対処し、心のケアに努めることができた。長欠生や配慮の必要な生徒について、担任が家庭訪問や連絡を行い、その都度学年で情報共有し対処することで、長期欠席の改善や別室登校、関係諸機関への通所ができるようになった生徒も出てきた。今後も研修会等で生徒の共通理解、日々の生徒や家庭の変化について適切に状況を把握し、個々の事案について迅速に対応していく。

取組内容②

「被害調査」「いじめアンケート」を計画的に実施し、実態を早期に把握し、いじめの疑いがある事案（今年度11件）を認知した際は、迅速に「いじめ防止対策委員会」を開き、組織として対応した。問題が解決した事案についても3ヶ月のみまもりと再発防止を徹底し、いじめ事案の解消に至っている。「いじめ（いのち）について考える日」は全校集会で講話や生徒会より全校生徒にいじめの防止について話すことで、学校全体でいじめを絶対に許さない雰囲気作りに努めた。

取組内容③

月1回の関係諸機関との連携会議で虐待の疑いのある事案と継続事案について共有し、週に1度の主任会でも、虐待の疑いのあった生徒について継続して情報共有し、みまもりを続けている。通報等で緊急性のある事案については、迅速に関係諸機関と連携を密にとり、生徒の実態把握と対処法を検討し適切に対処した。今年度に認知した4件の虐待事案のあった生徒については、学習者端末の「心の天気」でも特に注意し、日々の心の状況を把握した。「心の天気」に入力する際、マークごとの基準を全学年で統一し、毎日入力することを徹底した。虐待事案に該当しない生徒についても、「心の天気」を活用することで、生徒の家庭状況や日々の状況を理解することができ、適切な措置を講じることができた。

取組内容④

スマートフォンの危険性やSNSトラブルを未然に防ぐために「学校教育アンケート」の回答をもとに生徒の実態を把握し指導に活かした。「スマホ安全教室」を実施し、スマホの使い方や実際にあった事例を伝え、スマホの適切な使い方を指導した。また長期休業前の学年集会時にスマホの使い方についての指導を行った。その結果、生徒のスマホの使用の実態を把握することができるとともに、スマホの持つ危険性や依存性などを理解させることができた。

取組内容⑤

月1回の生徒専門委員会や生徒議会で生徒主体の活動を考えさせた。学年行事の際には生徒実行委員会を発足し、生徒が主体となり行事が運営できるよう指導させた。生徒が主体となった学年行事の積み重ねや学校行事を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感が高まった。

取組内容⑥

各学年とも平和学習・国際理解教育・特別支援教育の3つの柱で人権教育を行っている。教職員は平野区人権講演会、平野区人権教育実践交流会へ積極的に参加し、各々が人権意識の向上に努めている。今年度の平野人権教育実践交流会では、本校も特別支援学級での教育実践について報告を行った。平野人権教育ネットワークの活動多くの行事が再開され、平野平和人権こどもフェスティバルへの参加、ネットワーク内で教育実践の報告も行った。これからも地域や近隣校との連携を深め、大阪市が培ってきた人権教育を推進するとともに、近年のインターネットやSNSによる人権侵害についても学習を進めることが新たな課題となっている。

次年度への改善点

- ・教育相談の時間確保はここ数年の課題である。行事、会議等の精選を進め、生徒の心に寄り添う時間を作ることは喫緊の課題と言える。
- ・各種アンケートや調査は貴重なデータであり、校内の状況を知る重要な手がかりである。ただ、時代の変化や生徒の様子に合わせて、質問の内容を検討、変化させることが必要である。
- ・「心の天気」は、日々の生徒の心の状態を知ることのできる有効な手段である。毎日の入力率を向上させること、心の状態への対応力を高めていく。
- ・人権問題の最前線は昨今、インターネット、特にスマートフォンの問題である。使い方やトラブルの回避の仕方に加えインターネットの世界での人権問題について、情報モラル教育を計画的に進めていく。

大阪市立平野中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況						
【未来を切り拓く学力・体力の向上】							
全市共通目標（小・中学校）							
○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和4年</td><td style="width: 50%;">令和5年</td></tr> <tr> <td>37.4</td><td>38.2</td></tr> </table>	令和4年	令和5年	37.4	38.2		
令和4年	令和5年						
37.4	38.2						
○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和4年</td><td style="width: 50%;">令和5年</td></tr> <tr> <td>国語 0.91 (2年) 0.95 (1年)</td><td>国語 0.98 (3年) 0.95(2年)</td></tr> <tr> <td>数学 1.03 (2年) 0.97 (1年)</td><td>数学 1.00 (3年) 0.95(2年)</td></tr> </table>	令和4年	令和5年	国語 0.91 (2年) 0.95 (1年)	国語 0.98 (3年) 0.95(2年)	数学 1.03 (2年) 0.97 (1年)	数学 1.00 (3年) 0.95(2年)
令和4年	令和5年						
国語 0.91 (2年) 0.95 (1年)	国語 0.98 (3年) 0.95(2年)						
数学 1.03 (2年) 0.97 (1年)	数学 1.00 (3年) 0.95(2年)						
○大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和4年</td><td style="width: 50%;">令和5年</td></tr> <tr> <td>52.5 (大阪市 55.8)</td><td>51.9 (大阪市 54.3)</td></tr> </table>	令和4年	令和5年	52.5 (大阪市 55.8)	51.9 (大阪市 54.3)		
令和4年	令和5年						
52.5 (大阪市 55.8)	51.9 (大阪市 54.3)						
○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を45%以上にする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和4年</td><td style="width: 50%;">令和5年</td></tr> <tr> <td>55.6</td><td>56.0</td></tr> </table>	令和4年	令和5年	55.6	56.0		
令和4年	令和5年						
55.6	56.0						
学校園の年度目標	B						
○年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点)3割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和4年</td><td style="width: 50%;">令和5年</td></tr> <tr> <td>2年 22.3 (5教科) 20.4 (3教科)</td><td>3年 20.3 (5教科) 15.1 (3教科)</td></tr> <tr> <td>1年 7.9 (3教科)</td><td>2年 18.2 (5教科) 16.6 (3教科)</td></tr> </table>	令和4年	令和5年	2年 22.3 (5教科) 20.4 (3教科)	3年 20.3 (5教科) 15.1 (3教科)	1年 7.9 (3教科)	2年 18.2 (5教科) 16.6 (3教科)
令和4年	令和5年						
2年 22.3 (5教科) 20.4 (3教科)	3年 20.3 (5教科) 15.1 (3教科)						
1年 7.9 (3教科)	2年 18.2 (5教科) 16.6 (3教科)						
○年度末の校内調査（学校力UPベース）の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和4年</td><td style="width: 50%;">令和5年</td></tr> <tr> <td>89.1</td><td>88.4</td></tr> </table>	令和4年	令和5年	89.1	88.4		
令和4年	令和5年						
89.1	88.4						
○年度の学校教育生徒アンケートの「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」、「給食を残さず食べていますか」それぞれに対して、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和4年</td><td style="width: 50%;">令和5年</td></tr> <tr> <td>起床：89.4、給食：80.3</td><td>起床：90.7、給食：84.6</td></tr> </table>	令和4年	令和5年	起床：89.4、給食：80.3	起床：90.7、給食：84.6		
令和4年	令和5年						
起床：89.4、給食：80.3	起床：90.7、給食：84.6						

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】 <p>前年度チャレンジテストの平均正答率3割以下の生徒について、誤答の多かった問題を精査し、その改善を図るために定期的に家庭学習課題を設定する。また、国語、数学、英語の3教科においては習熟度別授業を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の3割以上で小テストを実施する。 ・基礎学力向上のために月に2回以上の家庭学習習慣、読解力向上のために朝読書の時間を週3日設定する。 ・学びサポーターと協力し、放課後学習会を週2回実施、休業中は補充学習会を実施する。 ・各教科で効果的なタブレットの活用を模索し、教科会で効果検証を行い、教員の授業力向上を図る。 	B
取組内容②【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】 <p>授業で自分の考えを深めたり、広めたりする力をつけるために、生徒間の対話による学びを推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の今年度のテーマ「自分の考えを持ち、伝える力を伸ばす」に基づいて、研究授業を実施し、効果的な指導法を共有する。 ・自分の考えを「書く」、「伝える」活動（思考力・判断力・表現力の育成）の習慣化を図るために、言語活動の位置づけ（「どこで、どのような」を考える）を単元ごとに設定し、その進捗状況を学期ごとに確認する。 	B
取組内容③【施策5 健やかな体の育成】 <p>体育の授業において、全ての生徒が意欲的に運動に取り組むために、教師と生徒及び生徒間の肯定的なコミュニケーションの場面を増やす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や競技によって、班活動を通して生徒間の学び合いを促す。 ・学習者端末を活用し教員が模範映像を提示し、生徒自身が授業の動画記録を取り振り返りを行うことで競技技術向上を図る。 ・個に応じた目標を設定し支援を行い、一人ひとりの運動能力の向上を図るとともに、自己肯定感を育む。 	A
取組内容④【施策5 健やかな体の育成】 <p>健やかな体の育成に必要な運動、睡眠、食事の大切さを保健の授業や委員会活動を通して推進し、家庭での基本的な生活習慣の定着を図るため、家庭との連携を密にとる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食委員会による月3回のお昼の放送や保健委員による定期的な健康に関する掲示物によって、体の育成に必要なことを発信する。 ・保健体育の授業の健康についての単元後に、ワークシートで自身の基本的な生活習慣を振り返り考えさせる。 ・食育通信を月に1回発行する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

授業の3割以上で小テストを行い、生徒の弱点や必要な補強点を把握することで、個々の学習プランを立てることができた。また小テストや単元テストで生徒自身も自己の理解度や進歩を確認することができた。家庭学習などの定期的な課題は生徒の自己管理能力を養い、学習習慣を身に着けることに役立った。「全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙における授業での端末活用率を全国や大阪府と比較すると、週3回以上活用している生徒の割合が極端に少なかった。電子黒板を授業で活用することにより教員の授業力向上や生徒の学習意欲の向上に繋がってはいるが、アンケートの結果通り生徒が授業や家庭において学習者端末を活用して学習する機会がまだまだ少ないため、今後も教科会などの場で端末の効果的な活用などを話し合い実践していく。

学びサポーターによる放課後学習会は週3回実施し、定期テスト前には普段より多くの生徒が参加していた。延べ600人を超える生徒が学習会に参加し、3年生の入試前には参加が増加した。また、放課後学習会で英検対策（筆記、面接）を行い、資格の取得に向けて挑戦する生徒の支援を行うことができた。夏季・冬季休業中にも学習会を6日間実施し、課題が困難な生徒の学習支援を行った。今年度は全校集会での呼びかけや「サポーターだより」でさらに多くの生徒の参加を促することで参加人数が昨年度を上回った。

取組内容②

今年度のテーマに基づいて研究授業を実施し、研究授業後に全教員で討議を行い、良かった点や改善点を共有することができ、教員の授業や指導法の発想が広がった。各教科において生徒が自分の考えを「書く」「伝える」活動（思考力・判断力・表現力の育成）の習慣化を図るため、言語活動の位置づけ（「どこで、どのような」を考える）を設定するよう周知したが、現状では単元ごとに言語活動を位置づけて指導している教員に偏りがある。生徒間での対話による学びの機会を増やし、生徒が言語活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりできるように引き続き授業改善を図る必要がある。

取組内容③

個に応じた目標を視覚的に提示し、生徒が意欲的に取り組める環境を整えた。種目ごとに個のレベルに合った班分けを行い、生徒間で競争させることにより技術向上に向けて意欲的に取り組む生徒が増えた。また、伸び悩んでいる生徒に対し、生徒同士で教え合う姿勢もみえた。フォームのチェック等で学習者端末を活用することで、生徒が自身の身体の動きを確認することができ、身体の構造を伝えたり、部分の名称を学んだりより多くのことを学ぶ機会が増えた。

取組内容④

給食委員会による月3回のお昼の放送や保健委員による定期的な健康に関するポスター等の掲示物の掲示を実施した。給食に関しては残食が少なくなり、健康行動を継続的に持続し健康意識が定着した。また、食育通信を月に1回発行したことにより、健康意識の向上と行動変容を促進し、持続的な健康促進効果をもたらすことができた。校内でのこのような取組を通して自己管理能力が養われ、生徒が健康な生活を送るために必要な地盤を作ることができた。

次年度への改善点

- ・読解力の向上については検証が難しく、その方法を考える必要がある。また家庭学習でのデジタルドリル等の使用を各教科で検証していく必要がある。
- ・小テストや習熟度別授業の実施に関して、定期的に教科間で話し合い、進捗状況を確認する。
- ・研究討議のない研究授業へ参観する教員が少ないので、授業の参観シートを配布するなどの仕組みやや体制を整えていく必要がある。

- ・全教員が研究授業だけでなく普段の授業においても、研究テーマに基づいた指導ができるよう教科会や授業参観などを促していく。
- ・Teams に各種目の模範映像を保存し生徒がいつでも見ることができるようにすることで、技術向上につなげるとともに端末の効果的な活用を進めていきたい。
- ・全体的には体力の向上がみられるが、生徒自身が積極的に学びに取り組めるようなソーシャルスキルの向上を目指し、自己肯定感を向上させていく。
- ・食育通信や保健体育の授業で朝食について保護者や生徒に啓発を行っているが、朝食をとらない生徒が見受けられるため、引き続き促していく必要がある。

大阪市立平野中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成状況
【学びを支える教育環境の充実】		
全市共通目標（小・中学校）		
○家庭や授業で一人一台の学習者端末を効果的に活用し、年度末の校内調査における「家庭や授業で学習者端末を週に3回以上活用しますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。		
令和4年	令和5年	
70.4	70.3	
○協働学習支援ツールを用いた学習を推進し、年度末の校内調査における「学習者端末を活用して、友達と協力して授業の学習内容を理解することができている。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を40%以上にする。		
令和4年	令和5年	
72.9	74.3	
○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務を校種別の平均時間より下回る。		
令和4年	令和5年	
39時間49分 (43時間12分)	38時間14分(12月末) (40時間46分)	
学校園の年度目標		
○学習者用端末を活用した家庭学習の取組を月2回実施し、年度末の学校教育生徒アンケートにおける「デジタルドリルなどを活用した家庭学習で、学校の学習内容を復習することができた」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。		
令和4年	令和5年	
31.5	30.2	
○ゆとりの日の設定を、月2回以上または各学期に6回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間においては3日以上設定する。		
令和4年	令和5年	
ゆとりの日 17日 夏季閉庁日 3日、冬季閉庁日 3日	ゆとりの日 13日 夏季閉庁日 3日、冬季閉庁日 3日	
○令和5年度の学校教育生徒アンケートの「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。		
令和4年	令和5年	
70.4	69.8	
○年度末の保護者アンケートにおける「学校の様子をよく知ることができる」の項目で、肯定的に回答した保護者の割合が87%を上回る。		
令和4年	令和5年	
87.6	90.6	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗 状況
取組内容①【施策6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 日常的に学習者用端末を活用することで生徒の心の変化を可視化し、教育相談に活かす。		
指標 ・スクールライフノートの「心の天気」に毎日生徒自身が心の状態を入力する。 ・スクールライフノートの「相談機能」を生徒に周知し、個々の生徒が抱える問題の解決に努める。 ・年3回の教育相談に「心の天気」の内容を活かす。	B	
取組内容②【施策6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学習者用端末を校内、校外で活用する場面を増やすとともに、端末の機能を効果的に活用する。		
指標 ・「いじめアンケート」、「学校教育アンケート」、「習熟度アンケート」等の各種調査の際に学習者端末を活用する。 ・小テストや単元テスト等で、Google フォームや Microsoft Forms の活用を推進する。 ・日々の課題にも校内、校外においてデジタルドリルを活用し、個に応じた学びの機会を保障する。	B	
取組内容③【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の長時間勤務の解消を通じて、教員一人一人が仕事と生活の調和の実現ができる環境を整える		
指標 ・部活動に起因した長時間勤務となっている顧問教員の負担軽減を図るために、部活動指導員等の会計年度職員を積極的に雇用する。また、複数顧問制を活かし、指導に当たる教員を輪番制にするなど指導体制の工夫をする。 ・校務支援システム等のICTを活用し、各種調査やデータの分析にかかる時間短縮や会議の精選を行う。	B	
取組内容④【施策8 生涯学習の支援】 生徒の興味・関心に合わせた本を精選して購入し、学校図書館を活性化させる。		
指標 ・週3日は朝読書の時間を確保し、学校図書館を年間85日以上開館する。 ・図書の貸し出し冊数を年間80冊以上にする。 ・平野区役所が推進する「ひらちゃんノート」の提出を前年度より増やすため、毎月の委員会活動後、文化委員が取り組みの啓発を行う。	B	
取組内容⑤【施策9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 PTA 役員会や校区の地域活動協議会等で、学校の教育活動や生徒の様子について情報を共有し、学校・地域・保護者の連携による取組を推進する。		
指標 ・地域活動協議会の定例会で、教育活動や生徒の様子について報告する。 ・学校及び学年行事について、ホームページや学校だよりを通して周知する。 ・地域の防災リーダーやPTA 実行委員と連携した教育活動を年2回以上実施する。	A	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

スクールライフノートの「心の天気」について、生徒指導主事が主体となって取組んだことで、毎日朝学活前に生徒自身が心の状態を入力する習慣をつけることができた。朝に全校集会や学年集会のある日は入力を忘れる生徒がいるため、担任による声かけが必要である。今年度「相談機能」による事案は2件で、1件は入力ミス、もう1件は担任から聞き取りを行い、速やかに対応し解決するに至った。年3回の教育相談や日々の教育相談では「心の天気」の状況を踏まえて生徒理解に努めた。

取組内容②

「いじめアンケート」「学校教育アンケート」「習熟度アンケート」などのアンケートについては全体の8割程度の活用になり、効率的に結果を集約することができ、負担を軽減することができた。しかし、個人における単元テストなどでのMicrosoft Forms等の活用は1割程度にとどまっているため、今後、教員がアンケート機能を活用することで業務の軽減につながると考える。デジタルドリルの活用は、学年間に差はあるが、授業内での復習に活用するとともに、家庭学習の利用を促し定着しようとしている。

取組内容③

部活動指導員の雇用は増加し、顧問教員の負担軽減につながっている。しかし、部活動指導員により経験や年齢が異なり、指導を任せられる幅に差がある。休日の部活動においては複数顧問制を活かし指導の輪番制をとることで、休日勤務を減らし長時間勤務の軽減を図ることができるため、今後休日の部活動のあり方について検討していく必要がある。また、競技未経験の顧問が部活動顧問を担うなど、部活動の種類が多いため個人に対する負担が大きいことが課題となっている。

校務支援システムや百問練習等のICTを活用し、テストのデータ分析にかかる時間や、生徒個人の成績を出す時間などを短縮することができた。

取組内容④

集会以外の週3回は朝読書の時間を確保し、年間の120日の図書館開館と年間450冊以上の貸し出しを行った。本に対する興味・関心を促すため、本の貸し出しを行うスペースを廊下に設けている学年もあった。そして、文化委員を中心にお勧めの本の紹介文を掲示するなどの読書啓発活動を行ったことで貸し出し冊数の増加に繋がった。

「ひらちゃんノート」の活用を促すため、記録するように担任や文化委員会で声かけを行なった。その結果「ひらちゃんノート」の提出が昨年度の3冊から21冊に大幅に増えた。

取組内容⑤

毎日学校ホームページを更新し教育活動の様子を公開した。ホームページの2月末までの閲覧総数は87766と前年度を大きく上回っている。月ごとで比較すると、泊行事や体育大会、文化発表会の実施月は平均閲覧数（月）を超えていることから、地域の方や保護者が学校に対する関心が高いことがわかる。毎月の地域活動協議会や学期毎のPTA実行員会では学校や生徒の様子について報告した。その都度教育活動についての質問に回答し、理解と協力を得ることができた。

体育大会や文化発表会では保護者の人数制限を無くし来賓を招待したこと、より多くの方に生徒の様子を見ていくことができた。また、4年ぶりに授業参観やPTA実行委員会とともに祭礼巡視やふれあいスポーツ大会を実施することもできた。ふれあいスポーツ交流会には生徒、保護者、地域、教職員が100名参加し、有意義な時間を共有することができた。11月に実施した防災訓練には両地域から31名の防災リーダーが集結し、地域主導で生徒へ防災教育や訓練の補助を行い、地域の方との交流を通して生徒の地域防災に対する関心を高めることができた。

次年度への改善点

- ・「心の天気」の入力を習慣づけているが、学級によって差があるため、教員が入力状況を把握し入力を徹底できるよう声掛けをする。
- ・長期欠席生徒が「心の天気」を入力することができる環境をつくるため、学習者端末を持ち帰らせる。
- ・デジタルドリル等の学習者端末を活用した家庭学習を推進するため、年度初めにアダプター（全員）、ルーター（一部生徒）

を配布し、学習者端末の持ち帰りと活用を進めていく。

- ・校務支援システムによる業務軽減を推進するため、SKIP 校内掲示板や個人連絡の活用を増やす。
- ・Microsoft Forms の活用事例を紹介し、小テストや単元テストでの活用に役立てる。
- ・長時間勤務の一因となっている休日の部活動において、引率等を除いて顧問間で輪番制をとるなど調整を進める。
- ・会議開催時期と回数の検討、カリキュラムマネジメントを見直し業務の負担軽減を図っていく。
- ・廊下に設けているスペースの本の入れ替え頻度を増やし、文化委員による読書の啓発活動をより具体的なものにする。